

凍結胚の融解胚移植のご案内

お預かりしている凍結胚の移植には、自然な排卵のタイミングにあわせて移植する「排卵周期での胚移植」と、ホルモン剤を使用することにより子宮内膜を整える「ホルモンコントロール周期（HRC 周期）での胚移植」の2通りの方法があります。特に医師からの指示がない場合には、患者さま本人が希望する方法を選択することが可能です。決定に際し、医師との相談を希望される場合は月経開始2～3日目に来院ください。また、当クリニックでは**凍結胚の保存について更新の手続きを毎年お願い**しており、1年後に更新手続きがない場合には「更新の意志なし」と判断し自動的に廃棄させていただいております。ご注意ください。

1. 排卵周期での胚移植・・・希望する周期の排卵予定の数日前（通常は月経開始12～13日目前後）に来院
2. ホルモンコントロール周期（HRC 周期）での胚移植・・・希望する周期の月経開始2～3日目までに来院

1. 排卵周期での胚移植

月経周期が順調な方は、身体的な負担が非常に少ないこの方法で胚移植を行います。排卵日＝採卵日と考え、凍結胚の融解日を決定します。つまり、凍結日が採卵5日後であれば、融解胚移植日も排卵の5日後という事になります。「2. ホルモンコントロール周期（HRC 周期）での移植」と比較しても妊娠率は変わりません。ただし、月経不順の方で排卵させるのに多くの注射等が必要な方については不向きです。また、その月の排卵日が不明瞭であった等の理由により中止となる場合があります。妊娠成立後は通常の妊娠と同様に追加で行う注射などの治療は原則必要ありません。**当クリニックでは、この排卵周期での胚移植を推奨しております。**

妊娠判定までの通院回数は4回程度

排卵日検索（月経12日目頃）、排卵済みの確認（月経16日目頃）、移植日（月経17～19日目頃）、妊娠判定（月経28日目頃）

2. ホルモンコントロール周期（HRC周期）での胚移植

月経不順の方で、排卵日特定が困難な方に適しています

月経開始3日目からホルモン剤を使用することにより好環境の子宮内膜が作られます。しかし、内服やホルモン剤貼付など、ご自身で行う作業がやや複雑です。月経周期が順調な場合は、「1. 排卵周期での胚移植」と妊娠率は変わりません。

- HRC 周期の胚移植に必要な薬剤費用
月経開始3日目～妊娠判定まで・・・保険の場合約6000円、自費の場合約35000円
妊娠判定～妊娠9週頃まで継続・・・保険の場合約20000円、自費の場合約65000円
- お薬の飲み忘れや使用間違いの場合、妊娠率に影響を及ぼす可能性があります。
- 分娩時の出血が多いなどの産科合併症が増えることが近年指摘されています。
- 出生児の体重がやや増加するという報告、流産率が「1. 排卵周期での胚移植」よりわずかに高いという報告があります。

妊娠判定までの通院は4回程度

月経経2～3日目頃、超音波検査（月経13日目頃）、移植日（月経17～19日目頃）、妊娠判定（月経28日目頃）月経開始時点で大まかな移植スケジュールがわかるため、お忙しい方には便利です。

胚盤胞凍結が採卵後5日目、6日目どちらの場合でも、排卵5日目または黄体ホルモン剤投与開始5日後に胚移植となります。